

3 運営委員会開催記録

3.1 第1回運営委員会

3.1.1 開催概要

図表 3-1-1 第1回委員会 開催概要

項目	内容
開催日時	平成24年10月3日(水) 10:00~12:00
開催場所	情報通信総合研究所 2階会議室
議事	(1)開会 a. 文部科学省 挨拶 b. 委員紹介 c. 委員長 挨拶 (2)議事 a. 各委員の活動実績紹介 b. 平成23年度青少年を取り巻く有害環境対策の推進 青少年の通信機器利用のあり方に関する調査研究 ～昨年度調査報告 c. 平成24年度 ケータイモラルキャラバン隊 実施方針 d. 平成24年度 ケータイモラルキャラバン隊 評価方法
配布資料	資料-1 委員会委員名簿 資料-2-1 安心ネットづくり促進協議会 3か年の振り返り(石原委員) 資料-2-2 mixi 概要について(井上委員) 資料-2-3 インターネット上の青少年有害情報対策(小向委員) 資料-2-4 高校生の保護者&教職員向けスマートフォン講演資料(尾花委員) 資料-3 青少年の通信機器利用のあり方に関する調査研究 概要 資料-4 ケータイモラルキャラバン隊 シンポジウムについて 資料-5 ケータイモラルキャラバン隊 参加者アンケート(案)

3.1.2 議事内容

(1) ケータイモラルキャラバン隊 実施方針

- ・開催場所、開催時期については、資料に示した案を基に、引き続き安心協及び事務局により調整を進める。
- ・各委員は講演者やパネラーとして、いずれかの会場に参加するよう調整を図る。

- ・具体的な講演内容や開催形態については、会場決定後に、各地域のケータイモラル教育への意識やこれまでの取組の状況なども踏まえ、現地の要望等を把握した上で決定する。

－委員からの主な意見等－

- ・携帯電話やスマホがこれほどに普及している昨今の状況を考えると、子どもに「持たせない」では済まされなくなっており、リスクについて教えないままにそれらを使わせている保護者も多い。安心して利用するには、適切な指導が不可欠であると認識して欲しい。
- ・スマホに加え、携帯ゲーム機なども同様の危険性があることを伝えるべきである。
- ・これまで取組が余り進んでいない地域では、なぜケータイモラル教育に取り組まなければならないかといったことを、まず始めに伝える必要がある。
- ・シンポジウムが保護者と子どもで話し合いをするきっかけとなることが期待される。
- ・保護者からは、携帯電話やスマホの危険性やトラブルの発生状況だけでなく、具体的に子どもたちにどのようなことを行うべきかといった情報も求められている。トークセッションのような場を作って、保護者側からの質問を受け付けると言った方法も有効だろう。
- ・昨年度のキャラバン隊では講演形式だけでなく、ワークショップやトークディスカッションなども取り入れた。各地域の保護者の意識やニーズに応じ、様々なシンポジウムの形態を取り入れることが有効だと思われる。
- ・昨年度はシンポジウムの内容が新聞で大々的に取り上げられた。シンポジウムに参加していない保護者に対しても意識啓発につながったと思われ、このような点の効果も大きい。

(2) ケータイモラルキャラバン隊 評価方法

- ・昨年同様に参加者へのアンケート調査結果を基に、開催効果を評価する。
- ・アンケートの具体的な内容については、委員会後に設置するメーリングリストにおいて意見交換する。

－委員からの主な意見等－

- ・アンケートに、保護者がモラル教育を行う上で「何を知りたがっているのか」を把握する設問を加えたい。CSRに取り組む企業にとっても有効な情報だと考えられる。

3.2 第2回運営委員会

3.2.1 開催概要

図表 3-2-1 第2回委員会 開催概要

項目	内容
開催日時	平成25年3月7日(木) 13:00～15:00
開催場所	安心ネットづくり促進協議会 会議室
議事	<p>(1)開会</p> <p>a.出席者紹介</p> <p>(2)議事</p> <p>a.全体報告 ～ (報告書(案))</p> <p>b.ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> - 委員からの感想 - 全体評価について - 来年に向けた提案 など <p>c.その他</p> <p>(3)開会</p> <p>a.文部科学省 挨拶</p>
配布資料	<p>資料-1 委員会委員名簿</p> <p>資料-2 報告書(案)</p> <p>資料-3 アンケート集計～北九州速報版</p> <p>資料-4 新聞記事 札幌開催(北海道新聞)、兵庫開催(日経新聞)</p> <p>資料-5 文科省 文部科学省「ネット安全安心全国推進フォーラム」</p>

3.2.2 議事内容

(1) ケータイモラルキャラバン隊 所感

<参加者の傾向など>

- ・去年に比べスマホが日常生活の中に浸透している印象を受けた。また興味や関心の範囲が、ネットモラル全般的なことからソーシャルメディアにまで広がっている。技術や最近のトレンドについて知りたいというニーズも高い。パネリスト等のメンバに技術的な専門家も交えて対応してくことも今後求められるのではないかな。
- ・参加者には、モラル教育や普及啓発について切実に何かを取り組まなくてはならないという意識が感じられる一方で、何を取り組んでよいかわからないといった不安も感じられた。例えば「18の約束」など、何かあった際に具体的に参照できるものが手元があれば、現場の教職員や保護者の安心感も増すのではないかな。
- ・親のリテラシーレベルが二極化しており、何をしたらよいかわからない保護者と、(理解した

上で)スマホなどの賢い使い方について保護者が判断しなければならないと考える保護者と混在している。

- ・トラブル事例について知りたいというニーズも多い。しかしトラブル事例は、基本的事項を理解した人が聞かないと難しい面がある。例えば、基礎編、応用編のように(対象者の理解レベルに応じて)2回連続で実施したり、フォローアップする機会を設けたりするなど、次年度以降のキャラバン隊に際しては、スタイルを変えていくことについて検討してもよいのではないか。

<今後に向けて考慮すべき点など>

- ・アンケート調査から午前中開催のニーズが読み取れた。子どもがいない時間に勉強して、子どもの帰宅時間には在宅したいという保護者の気持ちには可能な限り応じていくべきである。また、もし土日開催を検討していくならば、子どもと一緒に参加してもらおう等、参加しやすい環境づくりをしていく必要がある。
- ・「こうしたことはいけない」という「啓発」から、「具体的にどのようにすればよいか」という「対策」や「取組」にフォーカスして伝えていく必要がある。またそれは子どもを守る立場にある保護者及び社会全体のステークホルダと、子ども自身との両方に伝えていかななくてはならない。
- ・情報提供していく際には、地域で取り組むことができる体制や仕組みづくりについても検討し、明確にしていく必要がある。
- ・条例がある石川県のアンケート結果からは、制度により「持たせない」を前提とすると、自己責任の意識が浸透しないといった仮説を読み取ることができ興味深い。県全体は情報モラルに対する意識が高いはずであり、自分で行動を起こす意識を持たせることの重要性や、浸透の難しさなどについて考えさせられる。改めて正しい情報提供が必要性について認識した。
- ・今回限りで終わらせるのではなく、このシンポジウムを、地域や学校でどう展開していくかについて考える契機としたい。また展開に際し、現地の PTA や学校が取り組みやすい仕組み(メディアとのタイアップやコンテンツの2次利用など)も検討していかななくてはならない。試行錯誤しながらよい形を作っていきたいと考えており、地域の実状を踏まえ、地域ごとに違うモデルを作ることも検討したい。次年度は少し実験的にいろいろなことを試してもよいかもしれない。
- ・既に関心が高い人に対するアプローチの仕方の検討も重要であるが、継続的に取り組む意義として、余り関心がないような、新しい層をどのように取り込むかも重要な視点である。
- ・文科省、総務省、民間事業者が一体となり、青少年のために取り組んでいること、またその意義について、引き続き地域や学校、PTA や保護者に示していくことが重要である

(2) 次年度に向けた提案について

<開催時期について>

- ・より多くの保護者が参加しやすいよう、開催時間帯の配慮などを行い、より多くの集客に努める。

<内容構成について>

- ・地域の実状に沿った内容構成が求められることから、可能な限り地域の状況について情報収集を行い、シンポジウムの効果を高めていくことが求められる。
- ・保護者へ伝えることは、ある程度押さえておかななくてはならない内容と、地域特性に応じて変化させる部分がある。両立は必要であるが、難しい面もある。それを考慮しつつ、例えばトークセッションの前にパネルディスカッションを入れて議論のテーマを明確化させたり、トークセッションで従来どおり会場の意見を聞きつつも、話題喚起を行ったりと、効果的な構成について検討を行っていく。

<関係者との連携について>

- ・アンケート調査結果や講師・パネリストの所感を踏まえ、例えば総務省の総合通信局にも同席していただいた上で、PTA に実施報告を行い、PTA が次に取るべき施策について共に考えていくことも効果的ではないか。シンポジウムを開催して終わりではなく、フィードバックを行い、継続的な取組を喚起できるような工夫を図っていく。
- ・これまでは PTA が自身主催のイベントに民間事業者を同席させることは考えにくかった。それは利益誘導されるのではないかとといった保護者側の不安に配慮してのことでもある。やはり PTA や保護者と民間事業者との距離感が遠い。各事業者の活動に対する理解を得て、より身近な存在に感じてもらい、青少年のために一体となり取り組む必要があると感じてもらえるよう、民間事業者との効果的な連携を図っていくことが必要である。今年度はソーシャルメディア事業者の参加が多くあったため、今後は携帯電話事業者の参画について働きかけた。
- ・上記民間事業者のみならず、継続的な取組を促進するため、民間の方や学校・行政とも連携しながら進めていく。
- ・質問をする参加者は今後地域で核となって活動してくれる可能性が高く、そういった存在は大切にしたい。一方で、大勢の前で手を上げるのはなかなか勇気がいることであり、そういった方々ともコミュニケーションできる時間を設けることなども検討の余地がある。(シンポジウム終了後に個別に話すことができる時間を設けるなど)